

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

Flying in future

九州大学 芸術工学部 音響設計学科 4年

加藤 拓

音の日イベントにて行われた「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」へ出品したステレオ2ch 作品「flying in future」の制作について報告する。

出品者である私はレコーディング、ミキシング、マスタリングの工程でエンジニアとして本作品に携わった。

1. 楽曲とアーティストについて

楽曲は福岡を中心に活動するフュージョンロックバンドの Acrophobia (アクロフォビア: <https://acrophobiainst.wixsite.com/acrophobia-inst>) の作品であり、作編曲も彼らによって行われた。編成はキーボード、エレキギター、エレキベース、アコースティックドラム各1名ずつによる4ピースである。



Acrophobia アーティスト写真

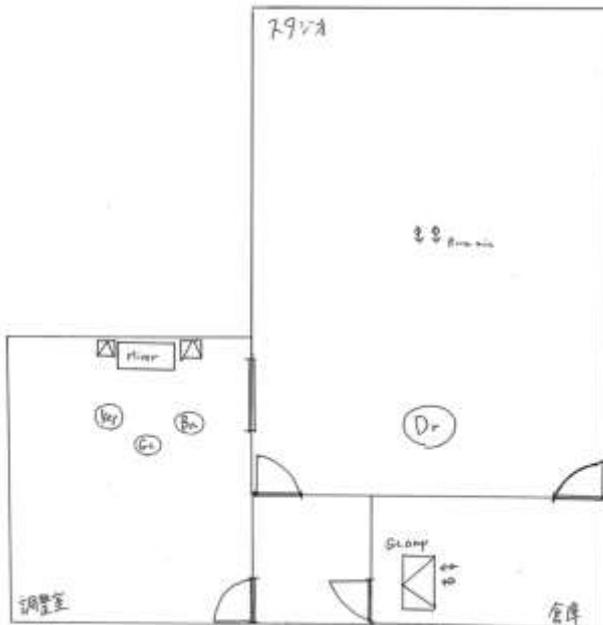
作曲者からは以下のようなコメントが寄せられている。

「多くは電子音楽で再現されるダンスミュージックを、ギター、シンセ、ベース、ドラムという編成のインストに落とし込むというコンセプトで作りました。インストならではのスリリングさや生々しさを感じとっていただけると幸いです。」

2. レコーディングについて

本作品の制作にあたり、演者とエンジニアである私の共通の目標として「スリリングなライブ感とスタジオクオリティな高い音品質を併せ持つ作品を作る」というものがあり、これを実現するために、スタジオで全てのトラックを同時に録音する、通称「一発録り」という手法を採用した。

録音は九州大学大橋キャンパス内の録音スタジオ内で行った。このスタジオは通常のレコーディングスタジオとは異なり、音響工学の実験室として、あるいはピアノ授業の練習室としてなど、多目的に使用されているため、レコーディング目的で使用する際はエンジニアが0からセッティングをしなければならないという特徴がある。しかし、逆に言うと学生エンジニアである我々も自由にルーティングを始めとする録音計画を立てることができる。



楽器配置



ドラムセットのセッティング

この性質を生かし、録音時は調整室内にキーボード、ベース、ギターを集め、ドラムは調整室とガラスで隔てた録音ホールにて演奏を行った。ギターアンプは倉庫に格納した状態で稼働させ、ドラムは別室で録音することによりマイクカブリを避けた。

レコーディングに際し、いいサウンドを得るために機材選択や、マイキングやドラムチューニング、弦楽器の音作りなどにも意識を向けたが、加えて本作品では良いテイクを得るための工夫を意図的に行った。具体的には、一発録りという手法の性質上、全演奏メンバーに長い時間集中力を要求するため、疲れや集中力の磨耗による演奏の質の低下を未然に防ぐために、常に演者の表情を観察し、疲れが見える手前の段階で休憩を勧めた。

また、この休憩の質をより高いものにするために、調整室内にテレビゲームや飲み物、軽食などを用意し、時にはスタジオ外に一緒に散歩に出かけるなどとした。

私は録音の質と並んで演奏の質が音楽録音作品のクオリティを左右すると考えている。これは至極当然のことではある

が、エンジニアという立場で制作に携わり続けていると意識が向きづらい事柄でもある。本レコーディングでは一発録りでいいテイクを得るために改めてこれを意識し、結果として、演者共々満足いくテイクを得ることに成功した。

一発録りで得られた素晴らしいテイクの生々しさを殺さぬよう、リズム修正などのエディット作業は最小限度にとどめた。また、楽器のリプレースメントに関しては全く行わず、作品内の音は全てスタジオ内で得られたもののみで構成されている。

3. 自己総評

一発録り作品特有の演者同士のプレイの相互作用によるグルーヴ感がある作品に仕上がったと自負している。一方で、ドラムを別室にセッティングしたことや、テンポガイドとしてクリックを使用したことが原因で比較的クール目な演奏になってしまったという反省もある。

次回以降、似た目的のもと制作を行うことがあれば、クリックを出さずに演者が全員同じ空間内で演奏ができるようなセッティングにしたいと考えている。

4. 使用機材一覧

○マイクロフォン

- shure beta52a (for Kick in) ▪ audio technica ATM25 (for Kick out)
- shure beta57a (for snare top) ▪ sennheiser MD421 MK2 (for Floor-tom, guitar amp)
- shure SM57 (for snare bottom, Hi-tom, and Mid-tom, guitar amp)
- AKG c451b (for Drums top-mic, Hi-Hat) ▪ Neumann U87Ai (for drums-room mic)

○ダイレクトボックス

- countryman type85

○コンソール

- AMEK BCIII

○キューボックス

- YAMAHA MG12, audio technica AT-HA60

○PC 周り (ヘッドアンプ&インターフェース&ソフトウェア)

- RME octamicII ▪ dbx 386
- Zoom Tac-8(for Rec) ▪ RME firefaceUFX(for Mix)
- Logic pro X
- waves ver.9 ▪ iZotope Ozone7

○モニター

- Sony MDR-CD900st ▪ Genelec 8050a
- Tascam VL-A4

■執筆者プロフィール



加藤 拓 (かとう たく)

1996年 大阪府生まれ

2015年4月 九州大学芸術工学部音響設計学科 入学

2018年4月 同大学 鎚木研究室 配属

2019年4月 パナソニック株式会社 入社(予定)